

愛知県(県域)

1 産地の概要

<対象品目> キャベツ

<産地の現状・課題>

愛知県は全国屈指のキャベツ産地であるが農薬散布の労働負担が大きく、また、被害が抑えきれない病害虫の発生といった①～③の課題がある。一方で、産地では環境に配慮した病害虫防除体系の確立に向けた機運が高まっている。

- ①病害虫防除暦や一斉防除情報を生産者へ提供し防除に努めているが、病害虫の発生状況をいち早く把握し、過度な農薬使用を避けるとともに適期防除が求められている。
- ②アルタナリア属菌病害は近年発生が増加しており、殺菌剤の耐性を獲得した病原菌が確認されている。本病害に対して効果の高い薬剤の選定が求められている。
- ③高齢化による離農等の影響により担い手に農地が集まり、一経営体当たりの規模が拡大傾向にある。効率よく農薬散布する必要がある。

2 検討体制

<愛知県組織と関係機関の役割>

- ・農業経営課
事務局
- ・農業総合試験場 農業革新支援センター
事業のコーディネート、実証計画・中間・成績検討会の開催、
実証データ・進捗状況の検討および事業実施地域以外での検討、
栽培マニュアル及び産地戦略のまとめ、先進研究等の調査
- ・農業普及指導センター
JA及び農業者との調整、実証圃の進行管理及び調査、技術指導、
先進研究等の調査、検討会・研究会への参加
- ・農業総合試験場 環境基盤研究部、東三河農業研究所
研究成果の提供、技術指導、検討会での助言、研究会講師
- ・JA
農業者との調整、技術指導・調査補助、データ収集
- ・生産者
実証圃の栽培管理、技術の検証、データ収集
- ・JAあいち経済連
資材情報等の提供、研究会への参加

3 グリーンな栽培体系

<環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術>

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
化学農薬の使用量削減	栽培期間全般 病害虫管理	<取り入れる技術> 病害虫予報AIアプリを活用した適期防除技術
		<見込まれる効果> 化学農薬散布回数の削減

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
化学農薬の使用量削減	栽培期間全般 病害虫管理	<取り入れる技術> アルタナリア属菌病害の薬剤感受性検定等を活用したリスク低減技術
		<見込まれる効果> 化学農薬の散布回数の削減

<省力化に資する技術>

作業段階	新たに取り入れる技術
栽培期間全般 病害虫管理	<取り入れる技術> 散布用ドローンを活用した病害虫防除作業の省力化技術
	<見込まれる効果> 農薬散布時間の削減

4 活動内容(予定)

<活動内容>

- ・検討会の開催(実証の計画・成績検討等)
- ・グリーンな栽培体系の検証
- ・栽培マニュアル、産地戦略の策定
- ・情報発信